

はぐくみ

平成21年7月7日発行(NO . 4)

第1回ふれあい学校訪問

ありがとうございました！

1学期も残すところわずかとなりました。各校におかれましては、1学期の学習や生活のまとめとともに、学期末の諸帳簿の整理にとりかかる時期をお迎えのことと思います。

さて、5月11日(月)より6月30日(火)の間、小学校38校・中学校14校 合計52校に訪問させていただきました。校長先生には、管理主事訪問や市教委訪問などが同時期に重なるなか、ご都合をつけていただきたいへんありがとうございました。おかげさまで、各校の状況や学校づくりの指針を伺うことができ、私たち3名の指導主事も、今回共通に理解させていただいた事柄を大切にしながら、今後の業務に生かしてまいりたいと思っております。以下、校長先生より伺いました事柄を概要としてまとめてみましたので、参考にしてください。

(1) 学校経営の重点(ズバリ「こんな学校づくりをしたい！」)

～小学校～

- 知・徳・体のバランスある成長を図っていききたい(多数)
- 学力向上は大切だが、その心の根底となる心の教育を
- 教師が子どもと向き合える時間を確保したい
- 笛吹市学校教育ビジョンを見据えた学校づくりを(グランドデザインづくり)(9)
- 1時間1時間の授業計画と評価を大切に(教師自身の学びを大切に)
- 第一に、わかる授業、楽しい授業を通して確かな学力を身に付けさせたい
- 低学力の克服を(基礎学力の定着)(4)
- 授業改善評価シートの活用
- 読書活動の一層の充実
- 「原点にもどった」教育=基本的な学習習慣を身に付けさせることから自己肯定感がもてる子ども達の集団にしていききたい
- 五感を鍛える教育活動を
- 学校と地域が一体となった教育活動を
- 地域の教育力を最大限に生かしたい(積極的な地域とのふれあい交流)(2)
- 家庭教育への積極的な啓発活動を
- 学年に応じた家庭学習の習慣化(2)
- 研究指定校(学力SP)を柱に据えた経営を
- 職員の学校経営参画意識を育てたい
- 職員相互の人間関係を密に
- 新たに特別なことをするのではなく、これまでの指導や取組をどう浸透させていくか(子ども達の具体的な姿から、何ができているのか、課題が何かをしっかりと見極めることに重点をおきたい)
- みんなの前で堂々と発言できる子に、切磋琢磨しあう子に。

～中学校～

日本一の 中学校をめざして

学力の向上、基本的な生活習慣の確立
職員集団の協力体制を強固なものにしたい
落ち着いた学校生活、学習環境を成立させたい
活力のある（一人一人の生徒が生き生きと学校生活を送れる）学校に
笛吹市センター校研究を柱に据えた校内研究の充実
学校生活に前向きに取り組んでいる生徒達の状況を継続させていきたい。
小規模校のよさを生かしたきめ細かな指導体制を（２）
「中の生徒であってよかった」と思えるような学校づくり
バイタリティーあふれる生徒を育てる
しっかりとした学力を身に付けさせる（小学校間の学力差がある）
地域の方との直接的な会話や交流を（幼保小のつながり）

（２）移行期初年度の教育課程の編成・実施状況について

～小学校～

授業時数の確実な実施に努めている。（多数）
基礎学力の定着へむけ、朝学習の時間や放課後の時間の確保に努めている。
きめ細かな指導加配を高学年の算数で活用している。（２）
小学校外国語活動の進め方については、学校や地区に応じて時数を確保し、ALTを活用するなかで試行的な学習活動を行っている。
・今の時点ではALT主導
・昨年に引き続き、JTEに参加してもらっている
・石和地区年間２０時間に統一、他地区は芦川小以外は３５時間。
甲州市、山梨市とも年間３５時間で統一
山梨市、旧塩山地区など 地区小学校と連携して進めている
・１～４年 ３・４年で「総合」でカウントしている学校へ指導（総合でカウントしないこと）
１・２年は裁量の時間で行っている。
・英会話クラブを創設し、４年以下の活動の場の保障している。
担任だけでなく、校長以下、全職員が研究授業をし、互いの指導方法を公開し合い指導力の向上に努めている。
児童会活動の取組が薄くならないように配慮している。
日課は週１日のみ５時限。校内研究会の時間確保が難しい。
行事への取組も慌ただしく、ゆとりがなくなっている
放課後の打合せなどは極力なくし、授業をいかに充実させ、子どもと向き合う時間を確保するようにしている。
小学校の１時間増について
・１時間ではあるが、現場にとっては多忙化に拍車をかける１時間である。
・放課後の時間確保が難しい。行事等（陸上記録会等）への取組の時間減。職員会議、校内研究会の開始時刻が１６時頃。勤務時間（特に、教職調整額がない市担職員のこと）を勘案すると、時間延長もしにくい。大切な学年職員の連絡調整の時間も確保しにくい。
岩手小「教育課程特例校」の取組
・英語科としての研究
・会話のほか、スキット（寸劇）の発表にも取り組んでいる。
・担任、ALT、JTE、地域ボランティアなどによる豊富なスタッフによる学習
・確かな学力の育成にも取り組んでいる

～中学校～

授業時数の確実な実施に努めている。（多数）
選択は学校選択で（多数）
・選択と必修の関わりを大切に
・A中では １年体育 ２年国語と理科 ３年音楽、数学、英語

- ・ B 中では 1 年体育 2 年数学、英語、体育
3 年国語、数学、英語、社会、体育

校内の分掌として数学力、英語力向上の特別プロジェクトを設けた。

学生ボランティアの活用

きめ細かな指導加配を効果的に活用

少人数コース希望選択制

学力の向上へむけ、少人数指導を取り入れている。(数学は、2・3年、英語は3年)

不登校経験生徒の学力保障が課題。(放課後の時間を利用した補充学習)

(3) 心の教育の充実(いじめ・不登校対策等)へむけて

～小学校～

校長を中心に教職員が共通理解の上になった指導を行っている。

家庭環境の不安定さが要因で、手をかけなければならない児童がいる。そのため、管理職、教務がクラスに関わって指導・支援している。

課題のある児童には職員の共通理解により協働した指導支援が行われている。

市担の学習支援講師により効果的なTT支援ができています。

配置されているSCによるカウンセリングにより、計画的な面談が行われている。

不適応加配教員が問題を抱える児童の対応にあたっている。

特別支援に関わる児童の指導がたいへん。それに多くのエネルギーを注いでいる。職員で情報交換をし、体制を整えて指導にあたっているが、追いつかない状況にある。

入学児童の指導の大変さを感じる。多くの学校では、指導経験豊富な教師を主任に配置し、学年が一体となった指導を進めている。また、保育園・幼稚園との交流活動や情報交換の場を定期的に行うなど、幼保小のスムーズな連携に取り組んでいる学校が多い。(教育事務所地域教育支援スタッフの業務との関連)

～中学校～

スクールカウンセラーと教育相談主任を軸にして、早期対応ができる機動的な体制を整え、効果をあげている。

教育相談部会、生徒指導部会を機能させて連携に努めている。

課題のある児童には職員の共通理解により協働した指導支援が行われている。

市担の学習支援講師によりTT支援をしている。

多くの不登校生徒がいるが、担任を中心に家庭との連携を図っている。

年度当初の52校の巡回訪問をきっかけに、昨年以上にSSWの活用頻度が増えてきている。

特に、家庭環境等が要因の問題への解決については、ケース会議開催へむけたコーディネートをはじめ、家庭訪問や保護者との面談、該当児童の教室での観察など、より広範囲にわたった業務を行っている。遅々たる歩みではあるが、要請した学校から「保護者の意識が変わり、子どもの表情が明るくなった」などの声も聞かれ、評価も高い。

(4) 学校内外の安全確保策について

全職員が目で日常的に校舎内外の巡視を行っている。

毎朝、職員が当番で所定の場所に立ち、挨拶を交わしながら安全指導を行っている。

ほぼ毎日の集団下校(低学年児童は高学年が終わるまで学校で生活)

保護者にも通学路を実際に子どもと歩きながら細かな指導をしてもらっている。

職員会議、校内研など、職員が指導につけない時は部活動を行わず、帰宅させている。(中学校)

スクールガード（青パト）の皆さんをはじめ、スクールガードボランティアなど組織された人たちが巡回指導を行ってくれている。

（見守り隊と子どもたちの顔合わせの会を実施）

甲州市では、不審者等の情報について、各校にメールで配信されている。

(5) 全校でこのことだけは指導徹底させたい事項

子どもにわかる言葉で話しかける指導

基本的な生活習慣の定着を（聞く、集会時の態度、掃除、異動は無言で）

3年生が落ち着いて学習に励んでいる。

「学びの集会」を通して、学ぶことの意義について理解しあえた。（中学校）

全校集会での校歌をしっかりと歌うこと、服装の乱れをなくすこと。（中学校）

書くこと、話すことに重点

学校に来てよかったと思えるような活動を

思いやりの心を育てる 習慣化から内面化へ

全校児童が読書が大好きになる取組の徹底

授業規律の徹底（中学校）

（甘えて育ててきている中学1年生への指導）

中学生としての基本的な行動様式を直接的な対話を通して段階に応じて指導。

(6) 校長先生からいただいたご意見・ご要望

はぐくみプランの学年進行を。

文書が多く負担感がある。精選できないか。

学校がとにかく忙しい。様々な事業等が学校に投げかけられていることが要因か。

職員の健康、家庭生活の維持が懸念される。

放課後の時間の確保が難しくなっている。打合せや会議が設定しにくい。

より過密になった日課について

県の会議が多く、特に火曜日の出張が集中し、途中から同僚に依頼して出かけること
もしばしばある。

特別支援の加配がなく非常に厳しい。

初任者・期間採用者の先生がおられる学校につきましては、短時間ではありましたが、授業を参観させていただきました。

みせていただいた授業どれもが、子どもたちとの良好な人間関係のなかで進められ、教材や子どもの発言のひきだし方などの工夫が随所にみられました。先生が明るい表情で子どもと接していたことをなにより嬉しく思いました。ありがとうございました。

～ 管内・夏季休業中の学校訪問（校内研究会等）～

7 / 27（月）石和西小学校・国語：2・4・5年指導案

算数：1・3・6年授業案の検討

8 / 7（金）大藤小学校・道徳：授業案検討

玉宮小学校・道徳：授業案検討

8 / 14（金）神金小学校・道徳：授業案検討

8 / 17（月）八代小学校・理科、体育、道徳指導案検討

8 / 19（水）春日居中学校・数学：1年（比例と反比例）指導案検討

社会：3年指導案検討

音楽：1年（鑑賞と表現）指導案検討

美術：2年（表現A）指導案検討

技術家庭：3年（生活の自立と衣食住）指導案検討

玉宮小学校・道徳：授業案検討